

# 長野県 公運協だより

第 159 号

発行所  
長野県公民館運営協議会  
長野市若里1-1-4  
県立長野図書館内  
電話 (026) 217-6256  
FAX (026) 217-7015

## 地域課題の解決に向けて

長野県公民館運営協議会

会長 市村 勝 巳



「公共の場」に関する新聞記事が目にとまりました。そこには、「必要であっても、管理する側の論理ばかりが前面に出れば、窮屈で、居心地が悪くてたまらない。本来、公共の場とはもっとのんびりできる場所ではなかったか。もっと対話があって、利用者たちが自ら考え、かわることができる空間ではなかったか」と記されていました。

「集う」場である公民館は公共の場としてどうあるべきでしょうか。この点について、昨年開催された近畿公民館大会兵庫大会（県公運協支援講座オンライン）に参加した際、示唆に富む話と出会いました。「文化による社会包摂」と題する平田オリザさんの講演で

「公共の場」に関する新聞記事が目にとまりました。そこには、「必要であっても、管理する側の論理ばかりが前面に出れば、窮屈で、居心地が悪くてたまらない。本来、公共の場とはもっとのんびりできる場所ではなかったか。もっと対話があって、利用者たちが自ら考え、かわることができる空間ではなかったか」と記されていました。

「集う」場である公民館は公共の場としてどうあるべきでしょうか。この点について、昨年開催された近畿公民館大会兵庫大会（県公運協支援講座オンライン）に参加した際、示唆に富む話と出会いました。「文化による社会包摂」と題する平田オリザさんの講演で

## 長野県公民館運営協議会 定例総会開催

五月二十三日、松本市松南地区公民館において、令和六年度長野県公民館運営協議会定例総会が開催されました。

県内各郡市公民館運営協議会から代議員が出席し、令和六年度の活動基本方針、事業計画、収支予算等を審議、承認しました。

会は異なり、それぞれの公民館が有する地域課題は多様です。その解決に向けて県公運協では公民館大会をはじめ、時宜にかなった研修の場を設けてきました。有識者の提言や他館の実践例は、各館の

課題解決の端緒を開く契機となるものと考えています。今後も情報の提供や有益な研修の場を企画・運営してまいりますので、大勢の皆様のご参加をお願いいたします。

同日の午後には、資料刊行委員及び長野県公運協だより編集委員の委嘱が行われ、「社会教育実践集」「長野県公運協だより」の発刊に向けた第一回編集委員会が開催されました。

### 令和6年度 長野県公民館運営協議会役員名簿

住 所	〒380-0928 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内	
電 話 番 号	026-217-6256	
F A X 番 号	026-217-7015	
メールアドレス	kounkyo@mxl.avis.ne.jp	
ホームページ	https://naganoken-kounkyo.com/	
役 職 名	氏 名	所 属
会 長	市村 勝巳	小布施町公民館長
副 会 長	松木 勝	長野市柳原交流センター所長
	市川 正彦	立科町中央公民館長
	内山 修治	麻績村公民館長
	細江 孝明	伊那市伊那公民館長
	藤野 一男	松本市安原地区公民館長
理 事	土屋 明美	小諸市公民館長
	川上 正彦	松本市松南地区公民館長
	佐々木祥二	飯田市公民館長
	池田 秋政	千曲市八幡公民館長
	藤澤ゆかり	上田市城南公民館次長
	大蔵 邦之	安曇野市中央公民館係長
	塚田 貴之	阿智村公民館主事
	遠山 真也	飯綱町公民館主事
	宮下 匡弘	長野市立朝陽公民館係長
	朝倉 光貴	松本市第一地区公民館主任
	亀井裕太郎	飯田市公民館主事
監 事	藤松伸二郎	安曇野市三郷公民館長
	小西 陽平	東御市中央公民館主事
事 務 局	木下 陽介	事務局長
	筒井美保子	アドバイザー
	竹内美津江	事務局員

### 令和六年度長野県公民館 館長総会・研修会を終えて

松川町中央公民館  
館長 山崎 隆

令和六年五月八日（水）松川町中央公民館並びに併設の町民体育館において標記総会・研修会が百八十名余の参加をいただき開催されました。

近年コロナ禍の影響のみならず、人口減少や少子高齢化、生活様式や価値観の多様化、地域連帯感の希薄化による公民館離れが懸念されています。このような中で今こ



そ『集う・学ぶ・結ぶ』の原点に立ち戻り、これまでの公民館の存在価値を維持しつつ、時代の変化やニーズに合った新たな理念や役割を模索していく必要があります。そうした視点から本会の趣旨を、「これまでの公民館活動を振り返り、今後どのようにしていけばよいか考える機会」とし、開催されました。

基調講演では、東北学院大学教授の原義彦さんから『地域づくりをめざす公民館への期待』と題して講演いただきました。公民館の使命と役割を再認識する中で、地域づくりにどうつながり、どうつなげるか。地域づくり支援を指す運営のポイントでは①地域の公民館しかできないこと②地域ニーズの掘り起こし③地域の必要課題を住民自身のニーズに、なすポイントとなる事をお話いただきました。

また公民館運営の自己点検、評価の必要性にも触れられ、充足度評価分析方法のTOOLの紹介もいただきました。どちらかという

と苦手な部分ではありますが必要な事だと感じました。  
午後は十六の分散会（一分散会当たり十名）に分かれて、「集う・

学ぶ・結ぶ」の理念と実践的活動・公民館を取り巻く諸課題について、並びに情報交換が行われました。昨年五月、新型コロナウイルス感染症の五類感染症への移行がされて、各公民館において多くの活動が行われている中での情報交換の場となりました。様々な課題を抱えながらも、地域づくりに公民館の果たす役割の重要性を認識したうえで活発な意見交換が出来たのではないかと思います。

最後になりましたが、今年度開催当番の下伊那公運協の館長・理事の皆さんには、半年に渡る準備から当日の運営まで多大なご協力をいただき無事開催できましたことに感謝を申し上げます。

## ブロックニュース 中信

### 令和六年度安曇野市公民館大会

安曇野市中央公民館  
主事 小笠原正明

令和六年五月十九日（日）に豊科公民館ホールにて標記大会を五年ぶりに通常開催し、二百七十名が参加しました。



開会式では、公民館活動推進功労者表彰、地区公民館表彰を行いました。館報表彰は、優れた館報を表彰することにより、地区公民館報作りの意欲の喚起と質の向上を目的としています。

事例発表では、明科地域の潮沢公民館長から「地域資源を活かす取組み」の実践事例を、豊富な写真とYouTube動画で紹介していただきました。参加者から「自分たちの地域の宝を見直し、発掘・活用する姿勢が素晴らしい」などの感想が寄せられ、身近な地域を見直す良い機会となりました。

講演会では、白馬村社会教育委員会委員長の富山正明さんから、



「地域で考える防災減災〜白馬村震災アーカイブサポーターズの活動を通して」と題して講演をいただきました。神城断層地震の経験を、村民自らが引き継いで生かしていくための仕組み作り（震災アーカイブサポーターズ）について説明があり、災害を「記録」だけでなく、サポーターを活用して「記憶」にすることが大切であると話されました。自らもサポーターとして活動する講師の言葉には、説得力がありました。

リレーコラム

「長野県らしい公民館とは？」<sup>86</sup>

原村中央公民館

主事 松瀬優和

「触れる学びを」

「学ぶ」と一言で言っても様々な形が存在すると思います。そこで今回は原村中央公民館で行っている学びの中から一つをご紹介しますように思います。

テーマは、「現在小中学校で使用している歴史の教科書を参考に、最新の歴史を学び、本物の土器に触れながら当時の人々の暮らしを

感じる」です。

狙いとしては、時代の歩みと共に変わりゆく生活環境や現代小中学校で使用されている最新の教科書。新たに解明されていく歴史。それらを再び学び直すこと。そして原村は八ヶ岳西麓に展開し、縄文の故郷や遺跡の宝庫と言われ、村内には九十八遺跡が分布しています。自分たちの住む地域の歴史を知り、実際に出土された土器に触れながら、原村に人々が住み始めたときとされる約三万年前の旧石器時代の人々の暮らしを感じながら学ぶことです。

講座では原村から出土された土器やお皿、狩猟に使用した黒曜石の道具などに触れながら、当時の暮らしについて学びました。参加者からは「普段なかなか触れることができない土器や道具に触れることができ、とても貴重な体験で、当時の人々の生活や暮らしの工夫を感じ取ることができた。」「現代にいたるまでの様々な暮らしの変化や工夫、時代の流れを感じることもできた。」「自分たちが子どもころ勉強した内容とは変わったところがたくさんあり、改めて歴史を学べた。」等の様々な感想や

意見をいただきました。

今回の講座では、話を聞くだけでなく実物に触れながら行うことで、より学習に深みが増し、現代の教科書や学習要領の過去との違いや進化、新たな歴史の発見や新事実を数十年後に新たに学びなおす楽しさを感じていただけたと思います。これも「生涯学習」の一つの形であると思います。原村中央公民館では、さらなる工夫と様々な視点や形で学ぶことのできる講座を今後も開催していきたいです。

ここに生きる

先生は高校生

須崎市井上地域公民館

館長 角田智子

小学校夏休みの終盤に「高校生のおにーさん・おねーさんとペットボトルロケットを作って飛ばそう!」という、世代間交流と夏休みの楽しい思い出づくりを目的とした講座を行いました。講師は「高校生有志団体Let's try project」の皆さんです。

日頃カッターを使わない子ども



たちですが、高校生が見守る中、慎重に切ったり、張ったり、絵をかいたり個性豊かなペットボトルロケットが完成。それを持ってグラウンドへ移動し、ロケットを飛ばします。自転車の空気入れで圧を加えて、「シュツ」という音と同時に、自分に水が降りかかり「気持ちい」と叫ぶ子。また、器具を反対にセットし「アレ、飛ばない」のトラブルにも優しく対応してくれた高校生でした。

子どもたちの自由な発想で想定を超えた遊びに広がり、充実した時間と楽しい思い出が出来た講座となりました。

### 公民館主催の敬老会

南牧村公民館

主事 有坂恭祐

南牧村では敬老会を公民館が行っています。近隣町村では住民担当課や高齢者福祉担当課が行っているのですが、もしかしたら県内でも公民館が担っているのは珍しいケースなのかも知れません。

敬老会が始まった頃は分館ごとに行っていたようですが平成十四年に本館主導の一括開催となりました。村の社会体育館に村内在住七十歳以上の方たち(敬老者)

(敬老者)



を集め、人気の演歌歌手を招いて、飲食をしながらのステージ観賞やおしゃべりは敬老者にとって楽しみのある行事でした。そんな敬老会も新型コロナウイルスが蔓延した令和二・三年は中止、令和四年は分館ごとの分散開催となりました。

「敬老者から全体開催を望む声が出ている」との分館役員の声もあり、令和五年に従来よりも短時間・小規模として全体開催に漕ぎつけました。久しぶりに会う他地区の友達に会えた参加者はとても嬉しそうなお表情をしていたことを覚えています。

敬老会は公民館活動の目的である住民同士の「つどう」「むすぶ」ことであり、住民の交流の重要性を改めて実感しました(なお、本年度の敬老会も全体開催を予定しています)。

### 県教委より

長野県及び長野県教育委員会からのお知らせ・お願い

令和六年度がスタートし、五月に「館長総会並びに研修会」「定例総会」が参集形式で開催され、多くの皆様に御参加いただく等、

公民館活動を各地で取り組みいただいていることに改めて感謝申し上げます。

さて、現在、県教育委員会においてコミュニティスクール検討会を開催しております。長野県におけるコミュニティスクールの在り方について外部有識者の方々からご検討をいただいております。コミュニティスクールに関係されている皆様にご覧いただき、ご意見をお寄せいただきたいと思います。詳しくは県教育委員会生涯学習課のHPをご覧ください。

令和六年度の組織改正により課名が文化財・生涯学習課から生涯学習課へと変更となりました。今後ともよろしく願います。

(生涯学習課)

指導主事 山極正夫

### 公運協だより

編集委員のつぶやき

南箕輪村公民館

主事 赤堀優未

公民館の活動は土日イベントも多く、やろうと思えばどこまでもやれてしまうもの。前主事から

仕事を引き継ぐとき、開口一番に言われたのが「無理やり休みを作らなさい」でした。(まだまだ難しいですが...)。

そんな公民館も夏と秋は特に忙しくなるのではないのでしょうか？南箕輪村でも小学生のお泊り講座や夏祭り、登山など目白押しです。特に夏休みに行う小学生のお泊り講座は、村内の間伐材を使ったスプーン作りや収穫体験、収穫した野菜を使ったお昼ご飯作りなど二日間で様々な体験をします。中でも大切にしているのが「新しい出会い」です。この講座には企画を担当していただく農家さんや講師の他に地域の方々や高校生、大学生がボランティアとして参加してくれます。地域の方やお姉さん、お兄さんと交流することで、参加する子どもたちにとっても、ボランティアの皆さんにとっても学びや達成感のある講座になればとせっせと準備しているところです。

やっぱり休みが遠くの公民館の仕事ではありませんが、自分も大事にしつつ楽しい公民館活動が出来ればと思っています。皆さんも身体にはくれぐれも気をつけてお過ごし下さい。